

土木工学・建築学委員会都市・地域デザインの多様なアプローチ分科会
(第25期・第7回) 議事要旨

日時 2022年1月24日 (月) 10:00~12:00

会場 遠隔会議

出席者

池邊 このみ・佐々木 葉・赤松 佳珠子・伊藤 香織・小野 悠・斎尾 直子・田井 明・
竹内 徹・船水 尚行・古谷 誠章・増田 聡・南 一誠・山田 あすか・山本 佳世子 (18
名中 14 名出席)

議題および決定事項

議題 1) 委員からの話題提供

伊藤委員から「モノ・コトのデザインと、まちに対する認識」と題した話題提供があった。シビックプライドとその歴史的経緯、富山でのシビックプライドについてのアンケート調査結果、” Architectural Policy in Finland: Architecture as Civic Education” (フィンランドの建築政策)、スマートフォンを利用した自由散策の被験者実験成果について紹介された。また、グッドデザイン賞の審査と2020年・2021年の受賞作品、土木学会建築マネジメント委員会公共デザインコンペティション研究小委員会についても紹介された。

シビックプライドの重要性とともに、日本の地域のアイデンティティとフィンランドの事例からの学ぶことの必要性、その土地ならではの食べ物、これを育む土壌や風土から建築を考えること、建物や都市についての教育が高校までで行われていなかったことなどについて議論が行われた。

議題2) 今後の活動についてのフリートーク

第25期の活動の方針、1月7日 (金) に本分科会も委員長、副委員長、幹事2名で話し合った成果について紹介された。合わせて山田あすか委員からも資料にもとづいた提案がなされた。

- ・デザインは多様なものを包含している概念であることを理解できるアウトプットがあると良い。書籍としてまとめる前に、ウェブ上でディスカッションができるプラットフォームがあり、そこで意見を集約することが良い。
- ・質が高いものを作るための配慮がデザインであるという幹事らの仮定から発展させると、経済的生産と社会的再生産 (ケア性) をデザインの視点で説明できないか。また、逆接的なアプローチから定義や方向/可能性を探ろうとするのであれば、

「悪のデザイン」といったアイデアもある。

→「悪いデザイン」「良いデザイン」「人間中心のデザイン」という言葉があることから、デザインは自明に善いもの、自明に人間のためのものではないということ。デザイン=善いものとしてしまうのは危険ではないか。ケア性が高いデザイン、効率性が高いデザインなどデザインには数多くの指標がある。

- 方向性としてデザインを広げていくことを目指し、デザインに興味がない人をどのように巻き込むかが重要である。
- デザインの幅の広さ、可能性が重要であり、市民社会がデザインの可能性に着目してくれるようにしたい。郷土自慢として、食べ物のように、建築が自慢されるような社会にしたい。親近感を持った建築、都市君間に結びつけるようにしたい。
- 提言としてまとめるよりも、広く皆さんにデザインが伝わるようにしたい。

議題3) 若手アカデミー企画の公開シンポジウムの主催について

公開シンポジウム「縮退時代において、20年後のまち・社会を考える～宇宙×都市×遺伝子×生態～」(2022年3月1日(火) 13:00～17:00)を主催することが承認された。

次回、第8回は、2022年3月3日(月) 10:00～12:00に開催する。

それまでに、深掘りしたいトピック、話題提供をお願いしたい人について検討するとともに、デザインについての委員の考えをフォーマットに記入して提出することとした。